

西神ニュータウン研究会 会報

第242号 2024年11月

■第242回例会記録

- ・日時 2024年10月12日(土) 13:00~16:30
- ・場所 櫛谷町 参加者8名
- ・テーマ 令和6年秋の見学会

「如意寺・諏訪神社を訪ねる」

■秋というにはまだ暑い日でしたが、天候に恵まれ、西神南ニュータウンから如意寺を経て、道中、道標を見つけながら諏訪神社まで歩きました。



◇如意寺

- ・如意寺は、天台宗叡山派の寺院である。神戸を代表する古刹の一つで、「如意寺旧記」によれば大化元年(645年)法道仙人が創建したと伝えられている。一方、貞応三年(1224年)の「延暦寺政所下文案」では願西聖人の建立(10世紀)とされている。
- ・かつては、24坊を擁する大寺院であり、江戸時代においても12坊あったと伝えられている。その名残は今や福聚院のみとなっている。
- ・寺院は、院政時代の阿弥陀堂(常行堂)、至徳2年(1385)建立の三重塔、享徳2年(1453)建立と推定されている文殊堂が伽藍を構成している。いずれも国の重要文化財である。
- ・本堂は、幕末に再建されたが、戦後、老朽化のため取り壊され、礎石のみが残っている。
- ・少し離れた位置に山門があり、鎌倉時代の金剛力士像が納められている。

○如意寺宇代隆信(うじろりゅうしん) ご住職のお話

……ご住職に、如意寺についていろいろお話を伺った。

- ・創建についてはいろいろな記録があるが、恵心僧都源信(天慶5年(942)~寛仁元年(1017))の姉(か妹)の願西尼(がんさいに)によると思っている。
- ・木材の集積地にお寺が創られる。お寺は信用もあり、地域開発の中心であった。
- ・お寺が大変だったのは、明治初めの廃仏毀釈運動。

(注: 慶應4年3月に明治新政府から出された「神仏分離令」は、神道と仏教の分離が目的だったが、廃仏運動が起き、仏像等が破壊される廃仏毀釈運動が広まっていった。明治4年には治まったという。)

- ・その前では、南北朝時代が大変だった。
南朝と北朝に天皇がいるため、お寺の帰属が安定しない等大変な時代だった。
- ・阿弥陀堂は室町時代に再建された。その時、屋根は栩葺(とちぶき)といって板を重ねる工法で拭かれたが、その後の改修で重い瓦屋根にしたため、軽い栩葺に見合っ作られた柱では重量が重すぎ、傷みが生じていた。昭和30~36年の改修で、栩葺に戻し、その上に保護のため銅板を葺いたものに変えた。

(注: 用いる板の厚みによって、柿(こけら)葺き(2~4mm)、木賊(とくさ)葺き(4~7mm)、



栩（とち）葺き（1～3cm）と呼ばれる。）

- ・幕末期に再建された本堂は、戦後老朽化のため取り壊し、今は礎石が残っているが、再建するつもりはない。というのは、幕末の再建時に、江戸期に建っていた建物の位置ではなく、少し後退させて一段高い位置に建てるために一部土盛りをして建てた。そのため地盤に柔らかい部分があり不同沈下をしてしまった。今の位置に再建することはできないと思っている。
- ・二ツ屋で寝殿造りの遺構が出てきた。地方で寝殿造りの遺構が出てきたのは、全国でここと平泉の2か所だけ。貴重な遺構であったが、壊されてしまった。
- ・かつて如意寺は寺谷にあったという伝承があり、今も如意が谷という小字名や如意寺谷池という溜池が残っているが、そうした事実はないと思う。寺院が谷筋の奥へ移ることはあっても、出てくることはないと思う。
- ・古文書が真実とは限らない。
- ・等々、文献のみでは掴めない歴史のお話をさせていただきました。



上：1804年の如意寺…右上が本堂)

下：現在の如意寺…右上の空き地が本堂跡



◇道標

- ・近辺には如意寺への道案内をする道標がいくつか残っている。
- ・左の二つは、谷口バス停から少し如意寺の方へ入った所にあり、「右如意寺」「左ありま道」と書かれている。
- ・その右は、小部明石線沿いの茅葺民家の向かいの家にあり、当主の曾祖父が近くの道端から持ってきて祭っているという。大師像の下に「左如意寺」と書かれている。文化7年11月（1810）の銘がある。
- ・一番右は茅葺民家の東を走る旧街道沿いにあり、正面に「如意寺道」と書かれている。ここから如意寺に至る山越えの道があったのかもしれない。



◇茅葺民家

- ・神戸市には、782棟もの茅葺民家があり（2023年3月調査）、全国でも有数の数である。北区に多いが西区にも97棟ある。多くは茅葺の上を金属板で覆ったものであるが、約1割（76棟）は茅のままの状態にある。この住宅は4～50年前に金属板で覆ったが、神戸市の補助を受け昨年茅葺に葺き戻した貴重な住宅である。内部も改修し住みやすい快適な茅葺住宅を実現している。



◇諏訪神社

- ・社伝によると、鎌倉中期の文永元年（1264年）、端谷城主の衣笠法眼為氏が、信州諏訪大社より寺谷（櫛谷町の東端地区）に勧請（かんじょう）したが、現在地の山の木の上に「光り物」が現れるようになり、夢のお告げで、今の地に移したという。
- ・主祭神は、建御名方命（タケミナカタノミコト）で、大国主命の子である。
- ・秋祭りには、太鼓山車や子供神輿が出、神楽舞や子供相撲が奉納される。今年は10月6日に行われた。

